



次代を担う若者たちを応援

公益社団法人 日本測量協会

会長 清水 英範

昨年（2024年）の元旦、あの甚大な被害をもたらした能登半島地震が発生しました。

当協会は従来、大規模地震災害時には、被災地の復旧・復興、特に測量事業を支援する活動を行ってきました。また、測量との関係において重要な被災状況や、復旧・復興に向けた産官学の取組みの広報にも努めてまいりました。

先の能登半島地震に際しても、日本赤十字社などへの義援金の拠出、技術的な相談対応や特別料金による測量成果の検定などの測量支援、当協会の月刊「測量」誌への特別企画の特集記事、連載記事の掲載等を行いました。

以上の活動については、それぞれの意義や費用対効果を吟味し、能登半島地震の復旧・復興測量への継続支援、そして来るべき大災害に向けた対応に活かしていくつもりです。「来るべき大災害」と書きましたが、当協会の災害対応はこれまで基本的に震災対応でありました。しかし、昨年9月

に能登半島を襲った豪雨に見られるように、豪雨災害は益々激甚化しています。当協会としましては、対応する災害の範囲を広げる必要性を感じており、人的・財源的な制約もありますが、前向きに検討していくつもりです。

さて、当協会は測量・地理空間情報分野の一大イベントであるG空間EXPOの運営に参画していますが、今年度は来る1月29日～31日、東京ビッグサイトで開催します。G空間EXPOにおいては近年、若手が設立した新進気鋭の会社からの展示や、大学生や高校生による研究発表が格段に増えてきました。実に頼もしく、測量・地理空間情報分野の輝く未来を予感させてくれます。

当協会はこのような次代を担う若者たちを応援するべく、彼ら彼女らにとって、もっともっと魅力的で意義ある協会となれるよう、関係する事業の充実・強化に努めてまいります。